

## 第9回八戸市学校適正配置検討委員会会議録

日 時：平成22年2月22日（月）15:00～17:00

場 所：八戸市庁本館3階 議会第四委員会室

出席者：（委員）目修三、古館良策、今勝康、大島光子、今川一、黒澤宗男、古館義美、  
北向幸吉、岩村隆二、日山祥子（以上10名）

（市教委）松山教育長、芝教育部長、伊藤教育部次長、高野学校教育課長、  
佐々木学務GL、磯嶋学務G主査、町井学務G主査（以上7名）

計17名

事務局：ただいまから第9回八戸市学校適正配置検討委員会を開催させていただきます。本日は委員  
全員がご出席ですので、八戸市学校適正配置検討委員会設置要綱第5条第3項の規定により、  
本日の会議は成立となりますことを皆様にご報告させていただきます。

事務局：早速審議に入りますが、進行は目委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願  
いいたします。

委員長：それでは会議を進めさせていただきます。前回のおさらいに入る前に、委員会の進め方につ  
いて事務局から提案があるようですので説明をお願いします。

（事務局「委員会の進め方について」説明）

委員長：ありがとうございました。ただいまの説明についてご質問はございますか。何れも実施する  
となると時間との競争になります。特に柏崎小学校は来年移転しますが、今年中に来年の新  
入生の就学に関する通知をするとのこと。また、小規模校の対応につきましては地元と  
の話し合いもあるのでいつまでも延ばしておけないということで委員会の議論を少し早め  
たいという意向のようでございます。

委員：江陽中学校地区の意見交換会はいつか。

事務局：4月21日（水）です。その前に3月24日（水）に第三中学校地区の意見交換会があります。

委員長：他にご意見はありますか。よろしければ次回以降はそうに進めるということ  
で了承したいと思います。それでは会議を進めさせていただきます。それでは、前回審議を終  
了しました大館中学校地区について事務局でまとめていただきましたので説明をお願い  
します。

（事務局「審議のまとめについて（大館中学校地区）」説明）

委員長：ありがとうございました。審議のまとめについてご意見・ご質問はございますか。

（委員意見・質問なし）

委員長：よろしいようですので、大館中学校地区に関しては現時点でこのようにまとめるというこ  
とで委員会として了承したいと思います。それでは次に進みたいと思います。今回の対象地区  
ですが、前回に引き続きまして、白銀中学校地区、白銀南中学校地区について審議したいと  
思います。前回は、白銀中学校地区及び関連する白銀南中学校地区の説明をしていただきま  
して審議を終了いたしました。資料の追加があるようですので、先に事務局から説明をお願  
いいたします。

(事務局「児童生徒数推移（白銀中学校地区・白銀南中学校地区）」説明

委員長：ありがとうございました。資料の説明に関する質問も含めましてご意見・ご質問はございますか。この地区の大きな問題は、前回の説明にもありましたが、白鷗小学校が中学校に進むときに二つの学校に別れるときにどのように考えるか、それが一番大きな問題だと思います。

委員：岬台からは白鷗小学校と白銀南小学校のどちらが距離的に近いのか。

委員：交通の便からいくと白銀南小学校のほうが近い。

委員：白鷗小学校の開校が昭和 45 年であるのに対して白銀南小学校は昭和 63 年と、20 年ぐらい経ってから開校しているので、距離的には白銀南小学校が近いのだが、みんな白鷗小学校に行くのに慣れている。白銀中学校地区を見た場合、学区を見直すべきという意見が多い。意見にもあるが、大沢片平町内を検討する必要があるのではないか。他は児童数からいっても現状のままでいいと思う。

委員長：湊中学校に近いところが白銀中学校の学区になっているという問題点が指摘されました。その他では、白銀小学校と白鷗小学校が距離的に非常に近いという問題があります。児童数的には学校を維持していくための基準は満たしているので現在のところは問題がないと思いますが、将来を見通すと今回の提言に含めるかどうかは別として視野に入れておくべきではないかという議論もあるかと思えます。

委員：平成 27 年度の児童数を見たときに、岬台地区を除けば白銀小学校と白鷗小学校 2 つの児童数を足しても 500 人不足という状況であれば、将来は一つの学校にするというような方向性を持たせておいたほうがいいと思う。

委員長：その辺を考えるのであれば、岬台地区に関しては、中学校が白銀南であれば小学校も白銀南に移していきながら、将来、白鷗小学校と白銀小学校を統合するという視点もあるかと思えます。両校は昔はそれだけの児童がいたとは思いますが、やはり距離的に近いという感じはします。

委員：白銀小学校と白鷗小学校の人数が 1,000 人以上いて、昭和 63 年に白銀南小学校ができた。その時、岬台地区がなぜ白銀南小学校に入らないのかと思ったが、通学区域審議会で検討した結果、人数のバランスを考えてのことだったようだ。私も地域意見交換会に参加したが、岬台地区は白銀南中学校が指定校なので、小学校も白銀南小学校のほうがいいのではという地区の意見もあったが、現在在籍している保護者は現状のままでいいという意見もあった。というのは、白銀地区 5 校の人数のバランスを考えれば現在のままがいいという意見が圧倒的なように感じた。岬台地区からは、白銀南小学校に来たほうがバスの便もいいし歩道も整備されているが、白鷗小学校に通う子どもたちは非常に狭く危険な場所を通学している。しかし、当時の通学区域審議会の人たちはそういうことも考慮した上で決定したと思う。白銀小学校と白鷗小学校の将来的な人数だけを見れば統合してもいい感じはするが、そうなった場合は地域の方々からもいろいろな意見も出てくるかと思うので、現在の考え方、地域のバランスを考えれば現状のままでいいと感じた。

委員：白銀小学校や白鷗小学校、そして白銀南小学校は当時、児童が増えているときに建てられたのでこれほどまでに人数が減ることまでは想定していなかったはずである。当時予想していなかったことが現在生じている。この辺は、地域の住民の感情がどこにあるか非常に微妙である。適正な規模というが、6 年後は分かるが 20 年後になると人数は全然読めない。将来

複式になるような学校であれば将来的に統合も検討する必要があるだろうが、そうでない今の状態ではなかなかそこまで言うのは辛いところだと思う。将来的に検討する必要があるだろうという形にしておいたほうが良いと思う。

委員長：大沢片平、第三三島町内は湊小学校に近く学区外通学者がいるということですが、これらの町内について通学区域を変更するか、または学区外基準を緩和して進めるという方法もありますがいかがでしょうか。

委員：大沢片平町内から白銀中学校は距離的にすごく遠い。それに関して町内からの要望はないのか。今言われてみて初めて知った。すごい距離である。

事務局：これまでのところは特に要望はありません。

委員長：大沢片平、第三三島町内は、昔からの土地感情でいくと白銀地区になるのでしょうか。

委員：大沢片平町内に住む知人は、白銀地区に愛着があり、湊には絶対行かないと言っていた。

委員：この辺は旧白銀村の境である。昔の感情が残っている。

委員長：そうしますと、この委員会で学区を変更すべきと提言しても相当抵抗があると思われます。

委員：今の白鷗小学校が白銀中学校であったときに在籍していた。当時、修学旅行に行っている間に白銀中学校が火事に遭った。今の白銀中学校に行っても母校という感じがしない。今の白鷗小学校のほうが私たちにとっては白銀中学校だという意識がある。昔は白銀小学校と白銀中学校が距離的に近く、また浜通りに人が多く住んでいた。今は埋め立てられてほとんど工場街で住民が上にあがってきた。だから大人の感情としては、大沢片平、第三三島はすごく遠い感じがする。白銀小学校までは来ると思うが、中学校まではどのように通っているのだろうか。バスか保護者の送迎か又は中学生なので徒歩で30分以上かけて通っているのだと思う。昔は湊小学校も大規模校でなかなか入れなかったが今は人数が減ってきている現状のなかで、地域の声もあると思うが学区を変更してそちらに通いたい子どもは通わせたほうが良いと思う。

事務局：ご参考までにお知らせいたします。地域意見交換会で出された意見をご紹介しますと、白銀中学校と白鷗小学校の場所を交換したほうが良いというご意見がありました。もともとは今の白鷗小学校が白銀中学校でしたから、そうすれば大沢片平町内からも中学校が近くなります。白銀振興会の町内でもありますので地域の方は学区の変更を考えていないというご意見でした。また、白銀南中学校地区ではすこやか南ネットというネットワークができています。さきほど委員からもご発言がありましたが、白銀南中学校地区は公民館を中心に動いているので、できれば安全面から見ても歩道が整備されている白銀南小学校に来たほうが良いのではないかとご意見もありました。

委員長：確認いたしますが、中学校と小学校は設備等いろいろ違うと思います。当然お金はかかると思いますが、もし交換するといった場合は物理的に可能なのでしょうか。建て替えるぐらいの費用がかかるのであれば少し現実的ではないと思いますが、もしそうでない場合は検討する余地はあると思います。その辺はいかがでしょうか。

事務局：白鷗小学校はもともと白銀中学校でしたから建物的には問題はありませんが、武道館や校庭の広さの確保など、この辺はやはり検討しなくてはならないと思います。

委員：地域意見交換会に出てくる方々は地域の代表者が多い。出身校であるということでも思いが強いと思うが、今現在、大沢片平や山手三島など湊中学校に近い町内から通っている生徒が湊

中学校に通いたいとなった場合、その要望は取り入れられるのか。

事務局：学区外許可基準に当てはまらないため、現時点では原則通うことができません。ただし、個別の事情により認める場合はあります。

委員：もし白鷗小学校が今の白銀中学校に移った場合、もともと白銀小学区であった白鷗小学区の下タ通り、第一人形沢町内などは距離的に遠くなる。そうした場合、このような町内の学区の検討もされるのか。

事務局：もしそうなった場合は、距離的にも遠くなるので当然検討しなければいけないと思います。

委員：意見照会結果はその学校の関係者が対象である。白銀中学校、白銀小学校、白鷗小学校の学区を見直すべきと回答した方が多かった。その中で大沢片平、第三三島町内などに住んでいない方でも学区を見直すべきとの意見があったため検討する必要があると思い、さきほど発言した。

委員：白銀地区は学区外による流入が多くまた、地域の中に学校が多い。地域意見交換会への保護者の出席者数が少なく、また、出席してもなかなか発言できない。意見交換会当日でなくてもアンケートをとるなどして保護者の意見を集められれば良いと思う。

委員長：この委員会での提言には間に合わないにしても、方針が決定されて地域への説明が必要になった場合は、何らかの形でアンケート等をとる必要があると思います。

委員：白銀中学区については現状維持でいいと思う。質問だが、白銀小学校の部活動は「一定の時間以外はスポーツ少年団の活動」となっているが、通常の部活動との違いは何か。

事務局：従来型の学校を中心として教員が教えるのが通常の部活動で、保護者や地域の方々と一緒に指導していくというのがスポーツ少年団の活動です。ただし部活動の場合でもスポーツ少年団には加入しています。白山台小学校など、特定の部活動についてはすっかり地域に移行しているものもあります。

委員：例えばアイスホッケーなど、合同チームは全国大会などに出場できるのか。

事務局：競技によりますがアイスホッケーは出場可能です。先日八戸市で中学アイスホッケーの全国大会が行われましたが、出場全チーム中単独チームは9チームでした。アイスホッケーの盛んな苫小牧でさえ合同チームで出場していました。

委員長：白銀中学校地区・白銀南中学校地区についてその他にご意見はありますか。

委員：資料の白銀地区の児童数の推移を見ていると、昭和33年当時の白銀小学校より今の白銀地区3小学校の児童数の合計のほうが少ない。先ほどは現状維持でいいと発言したが、次のステップも提言の中に入れてほしいと思う。

委員：私も将来的な部分も提言として残したほうがいいと思う。

委員長：それでは私のほうでまとめさせていただきます。白銀中学校地区、白銀南中学校地区は現時点では現状維持とする。現時点ではという言葉を入れたと思います。児童数が減少しているということを考えると白銀小学校、白鷗小学校、白銀南小学校の3校を維持していくことは非常に難しくなり、将来的にはもっと少ない学校数で対応することを検討すべきであるという付帯的な意見をつけて、この地区は現状維持とします。加えて言うならば、岬台地区や大沢片平、第三三島町内も地域感情もあることから、将来その時点で再度見直しを検討する、というようなまとめにしたいと思いますがいかがでしょうか。

委員：方向性の中に「3校を維持するのが難しい」という表現をすれば、白銀小学校の平成27年

度推計児童数の275人を下回る学校がたくさん出てくる。そうなった場合、今後審議していくのが難しくなるのではないかと。

委員長：その辺がどこまで将来性を見越した表現になるかと思えます。児童数推計のグラフを見ますと平成27年度以降も児童数が少なくなっていく可能性が高いと予想されます。委員の発言にもありましたが、最初、小学校が一つあった時よりも少なくなっています。広い地域に1つしか小学校がないところと、白銀地区のように3つの小学校があるところとの違いもあります。適切な言葉が今は浮かびませんが、将来は学校の統廃合も視野に入れた上で再度検討することとしたいと思えます。このような主旨で事務局にまとめていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

委員：「一つの中学校区に複数の小学校が存在する場合」という文言をいれたほうが良いと思う。

委員長：一部の言葉だけが独り歩きしないようにしたいと思います。

(委員異議なし)

委員長：それではそのようにさせていただきます。事務局にはお手数ですがまとめのほうよろしくお願いたします。引き続き湊中学校地区の審議に入りますが、ここも関連する地域でありますので東学校地区のまとめも併せて説明をお願いします。また、この東中学校に関しましては、地域の方々から湊高台地区への小学校建設の要望も出ているということですので、その経緯も併せて説明をお願いします。

(事務局「湊中学校地区のまとめ・東中学校地区のまとめ・湊高台地区への小学校建設について」説明)

委員長：ありがとうございました。ただいまの事務局の説明に関してご質問があればよろしくお願いたします。

委員：白山台小学校、日計ヶ丘小学校の建設費用及び国庫補助率、また、どの学校が何名になって分かれたのか。

事務局：後日報告させていただきます。

委員：青潮小学校について、中学校が湊と東に分かれることについて何か問題はあるのか。

事務局：市内には中学校が分かれる小学校が4校あります。同じ小学校で6年間共に学び、仲の良い友達と中学校で別れるのは寂しいという地域の声もありますが、一方では新たな友達ができるというメリットもあります。一概にどちらが良いとは言えませんが、現実として中学校が分かれる小学校が少ないというのが実態です。

事務局：加えて青潮小学校の場合は、児童がほぼ半分ずつに大きく分かれてしまいます。学校運営面では、小学校と中学校の教育連携である小中ジョイントスクールを実施していますが、青潮小学校の校長先生からしますと、湊中学校と東中学校の両方にまたがる大変さがあります。ほんの少しの児童だけ分かれるというのではなく、分かれる割合が大きいというのが青潮小学校の特徴です。

委員：青潮小学校のように大きく分かれるところはそれほど問題はないのではないかと。50人のうち2人か3人しか行かないとなれば子どもたちが可哀想である。距離的理由などを考えると決して大きな問題ではない。今の子どもたちは新しい学校にいくとすぐ仲間ができるという保護者の話も聞いている。中学校で分かれるのはそんなに大きな問題ではないと感じる。

委員：特に青潮小学校の場合は大きな道路を隔てて地域が分かれている。行政区も別れており、全

ての諸団体が分かれているので割り切っている部分もあるように感じる。ただ、校長先生は全てのことについて両方の中学校に行かなければならないので大変である。

委員：東小学校が出来れば湊高台の子どもたちが東小学校に通うため青潮小学校の子どもは全て湊中学校に進学することになる。そうなれば青潮小学校の校長先生の負担も減るはずである。

委員長：最初から中学校で分かれることが前提なので問題がなく、逆に言えばそこで学区を仕切っても大きな支障はないと思います。問題は、そこに学校を建てることの妥当性だと思いますが、東小学校を建てるとなると青潮小学校の人数が減少します。また、湊小学校も人数が減少しています。また、旭ヶ丘小学校も学区外による流出入が多い学校ですが、大館中学校地区の審議の際、新井田小学校とのバランスも考えると一応このままでよろしいということになりました。大きな論点は、湊高台に小学校を建てるか、そうなった場合に湊小学校、青潮小学校をどうするかという議論になるかだと思います。そこで、小学校を建てたほうが良いかそれとも現状でしばらく見たほうがいいのか、その点につきましてご意見をお願いいたします。

委員：湊高台への小学校建設に関する要望がこれまで何回かあったようだが、平成 14 年から平成 20 年までは何も要望がなかったのか。

事務局：要望書としては提出されていませんが、市議会での一般質問ではこの間も要望は出ておりません。

委員：一般質問の答弁の中に母体校が 31 学級以上分離新設校が 12 学級以上とあるが、これは何か基準があるのか。

事務局：基準ではなく、これは一つの目安としております。この目安をクリアした段階で新設を検討していきたいということでございます。今の場合、青潮小学校が 31 学級以上、湊高台への新設校が 12 学級以上どちらかをクリアした場合と読み替えていただければわかりやすいと思います。

委員：平成 6 年 12 月に三陸はるか沖地震があった。その時に建物修繕の国の補助の条件に、新しい学校は 7,8 年建設できないとあったように記憶しているがその辺はどうか。

事務局：そのような話は聞いておりませんが、確認して後日回答いたします。

委員長：仮にそうだったとしても、既にそれ以上年数が経過しているその点は問題ないと思います。その他ご意見はありますか。

委員：新しい学校をつくると言ってから 20 年以上経過し、確実に児童が減ってきている中でまだこのような要望が出ているのか。

委員：私も、子どもの数が将来 300 人を下回ると考えるので、新しい学校は必要がないと思う。

委員：地区全体では確かに子どもが減っているが、湊高台地区だけを見ると平成 27 年に向けてまだ児童は増えている。ただ将来的に湊高台地区に家が建つ余裕があるかどうか踏まえて検討すべきである。流出を考えなければ 370 人～380 人いると想定される。

委員：この問題は議会答弁にもある。青潮小学校はその基準をクリアできないが、湊高台の子どもたちだけを見れば新しい学校を建てられる人数はあると答弁している。だから住民は、あたかも明日にでも学校ができると誤解する。しかも何年も続いて同じ答弁をしている。また学校用地も湊高台の真ん中にあり、いやでも目に入る。町内会長はそれを見る度に苛立っていると思う。

委員：ただ、それで学校を建てたとしても、意見交換会の意見にもあるように、5 年程度ではなく、

10年20年先を見越した検討が必要である。

委員：湊高台地区の人口がこれから増える可能性がどの程度あるかも重要である。この状態でいくと議会での質問や要望がこれからまだまだ続くと予想される。要望が出ていることもある程度頭に置いてこの委員会で検討し、方向性を出す必要がある。

委員長：一方で湊小学校もかなり人数が減少する見込みです。この湊、東地区に3つの小学校が必要なのかも含めて検討する必要があると思います。

委員：青潮小学校の児童があふれていて新たに建てなければいけない状態というわけではない。要望はわかるが果たして学校を分ける必要があるのかという考え方を持たなければならない。同じ地域の中で、130周年も迎えた湊小学校が無くなるのではないかと騒いでいる。これも含めて検討していかなければならない。

委員：湊高台に住んでいるが、だいたい街は成熟してきていると感じる。確かに空き地にも家が建ってきているが、アパートが多くなってきている。アパートは増えているが一戸建てはそれほど勢いでは増えていないように感じる。130年の伝統を誇る湊小学校が将来の児童数が200人切るということから、この地域は青潮小学校を含め学区の再編はする必要はあるが東小学校の建設は不要だと思う。20年来ずっと建設を要望してきたという住民感情はわかるが、現実的なものとしてはそういう感覚は持っている。

事務局：先程、日計ヶ丘小学校の建設時の児童数というご質問がありましたのでご回答いたします。日計ヶ丘小学校建設の前年まで、隣接する根岸小学校の児童数が1,000人を超える状態が8年続きました。建設後は根岸小学校が676人、日計ヶ丘小学校が417人となっています。白山台小学校についてはニュータウンにできた学校ですのでそういう意味では少し状況が違います。

委員：白山台小学校は根城から分かれたが、造成計画が始まったときに学校はそこにつくるということで始まった。珍しく区画整理事業と整備公団との事業の二つが合体した事業である。

委員長：この地区を審議する上でもう一つ大きな要素は、光星学院通りの大きな道路に相当な交通量があり通学路の安全の問題があります。朝は保護者や地域のボランティアの方が協力しているとは思いますが、放課後はなかなか難しく、そういうところが問題点として指摘されています。

委員：ここは地域住民の感情が全く違う。湊高台は新しくできたので様々な方が移り住んできている。一方、湊は昔からの住民が多いという違いがある。連合町内会も違うし、このような状況の中、湊高台地区は昔からずっと陳情してきているようである。

委員長：将来的に湊小学校と青潮小学校を統合するという方向性はどうでしょうか。そうすれば、この湊地区に500名規模の学校としては維持できると思います。また、湊小学校と青潮小学校の住民感情も違うと思います。

委員：湊小学校は湊地区の真ん中にあり、青潮小学校は端にある。現在、青潮小学校は700人の児童がいるが元々はみんな湊小学校に通っていた地域である。ただ、元々は一つだからといってまた湊のほうへとは単純にいかない。湊地区の一つの小学校という場合は、湊高台に小学校を建設するという前提のもとで、この湊地区にも新しく建てる必要があると思う。

委員長：この地域は、湊高台地区に小学校を建てるかどうかの議論と湊地区の学区再編の議論を分けると、どちらも成り立たないような気がします。ですから、小学校を建てるのであればどうい

う可能性があるのか、逆に建てないとすればどういう議論が必要なのかということで進んでいかなければならないと思います。

委員：この地域の連合町内会がどのようになっているか教えてほしい。

委員：湊東町を含む湊高台六丁目、五丁目などの湊高台地区は湊高台連合町内会である。第一永楽町、永楽町などは湊地区連合町内会である。

委員：光星学院通りの道路を挟んで連合町内会は完全に分かれている。

委員長：そろそろ時間ですので終わりたいと思います。委員からの発言もありましたが湊高台への小学校建設の要望書が出ている。また、市議会でも議論されているという経緯もあります。次回委員会は別の審議となりますが、この件は、年度を改めて継続して審議したいと思います。委員の皆様方には次回の審議前にもう一度資料を見直していただきたいと思います。それでは事務局にお返しいたします。

事務局：事務局から2点報告させていただきます。第1点目は地域意見交換会の開催日程のお知らせです。今後の開催予定といたしまして、第18回目の第三中学校地区を3月24日（水）午後6時30分から第三中学校体育館で、第19回目の江陽中学校地区を4月21日（水）午後6時30分から江陽小学校図書室で開催いたします。ご都合がございましたらご参加いただきたいと思います。もう1点は次回委員会の日程でございます。事務局案として3月25日（木）の開催と考えておりますがご都合のほうはいかがでしょうか。

（委員異議なし）

事務局：それでは次回は3月25日（木）午後1時30分といたします。以上をもちまして第9回目の適正配置検討委員会を終わらせていただきます。大変ありがとうございました。

以上